

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月15日

【評価実施概要】

事業所番号	1277600084
法人名	医療法人社団 寿光会
事業所名	グループホーム いきいきの家 岬
所在地	千葉県いすみ市岬町和泉330-1 (電話) 0470-80-2051

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成21年2月8日	評価確定日	平成21年3月3日

【情報提供票より】平成20年12月30日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	14人, 非常勤 4人, 常勤換算 8.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有() 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(12月30日 現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.9 歳	最低	75 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岬病院(内科) 国吉病院(外科)、片倉歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

海や緑等の豊か自然に恵まれた環境の中、「グループホームいきいきの家岬」がある。施設は、全面バリアフリーで、目の届きやすい設計となっており、安全面に優れた造りとなっている。運営法人が病院で、老人保健施設が併設されており、医師・看護師・作業療法士・栄養士等と連携し、入居者の健康・栄養の管理が適切に行なわれていると共に、合同行事が行なわれており、楽しみの提供を行なっている。定期的な行事の実施や柚子湯・菖蒲湯の実施等、季節に応じた取り組みが行なわれている。職員は若い職員からベテラン職員がバランス良く配置され、個々の力を活かした柔軟なサービスの提供に努めている。明るい施設作りを目指しており、入居者本位のサービスの提供に向け、様々な取り組みを行なっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の公表後に、運営推進会議や職員会議の議題として取り上げ、外部評価の内容を周知している。また、外部評価の結果を玄関に設置し、来訪客への周知も行なっている。外部評価において挙げた改善点においては、会議等にて話し合い、一部改善を行なっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果を玄関に設置し、来訪客への周知も行なっている。自己評価の作成においては、管理者とリーダーが作成しており、作成後は職員全員が閲覧し、情報を共有している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	入居者家族・地域民生委員、地域区長、市役所職員、職員、介護従事者、有識者を構成員とし、6ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。議題として、施設概要の説明や施設の活動報告等を行ない、施設理解の促進に努めていると共に、意見交換や情報交換を行ない、サービスの質の向上に役立てている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情・相談窓口やご意見ポストを設置していると共に、面会時や電話にて家族からの意見・要望を確認している。前回評価の反省を踏まえ、苦情報告書を作成し、職員全員で事例検討を行い、適切な改善・再発防止に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩や外出時に近隣住民とは挨拶を交わす関係が築かれている。お祭りや初詣等の地域行事に参加をし、地域との交流を図っている。また、運営推進会議を通じて地域の民生員と交流を持ち、地域の方の介護相談や情報交換を行っている。併設の老人保健施設との合同行事にて地域ボランティアとの交流の機会が設けられ、外部との交流を行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の個性尊重と家庭的な生活の構築を主眼とした施設独自の理念を掲げている。		独自の理念に地域密着型サービスとしての役割を目指した内容を付加し、更なる地域生活の継続支援と地域との関係性の強化を目指していただくことを望みます。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議や朝礼等にて、理念の確認を行なっている。玄関に理念を掲示し、来訪者に対する理念の周知を行なっていると共に、運営推進会議等にて、理念を説明し、外部への周知を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や外出時に近隣住民とは挨拶を交わす関係が築かれている。お祭りや初詣等の地域行事に参加をし、地域との交流を図っている。また、運営推進会議を通じて地域の民生委員と交流を持ち、地域の方の介護相談や情報交換を行っている。併設の老人保健施設との合同行事にて地域ボランティアとの交流の機会が設けられ、外部との交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価の公表後に、運営推進会議や職員会議の議題として取り上げ、外部評価の内容を周知している。また、外部評価の結果を玄関に設置し、来訪客への周知も行なっている。自己評価の作成においては、管理者とリーダーが作成しており、作成後は職員全員が閲覧し、情報を共有している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族・地域民生委員、地域区長、市役所職員、職員、介護従事者、有識者を構成員とし、6ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。議題として、施設概要の説明や施設の活動報告等を行ない、施設理解の促進に努めていると共に、意見交換や情報交換を行ない、サービスの質の向上に役立てている。		

【千葉県】グループホーム いきいきの家 岬

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員とは、施設運営全般に関する質問や相談を随時行い、サービスの適正化に取り組んでいる。また、施設のパンフレットを市役所に設置してもらう等、市役所の協力も得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回施設の広報誌に担当職員からのコメントと写真を添えて入居者の生活状況や行事予定等を報告している。また、家族の面会時に暮らしぶりや受診状況等を報告していると共に、生活状況に変化があった場合や必要な場合には、随時電話にて報告を行なっている。行事予定やお知らせ等を玄関に設置しているホワイトボードに書き、家族に周知している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口やご意見ポストを設置していると共に、面会時や電話にて家族からの意見・要望を確認している。前回評価の反省を踏まえ、苦情報告書を作成し、職員全員で事例検討を行い、適切な改善・再発防止に努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動や担当職員の変更を最小限に抑え、入居者の負担に配慮している。入職・退職があった場合には、広報誌にて家族への報告を行なっている。入職があった場合には、慣れた職員と一緒に業務を行い、入居者とコミュニケーションが取りやすい環境作りをし、早く馴染みの関係が築けるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修においては、必要に応じてできるだけ参加するよう努めている。運営法人にて接遇や介護技術等の研修が開催され、積極的に参加をしている。研修参加後は、報告書と資料を職員全員が閲覧し、情報の共有を図っている。また、日常業務において、指導を行い、人材の育成に取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会、系列グループホームにて行なわれる「いきいきの家連絡会」、地域の介護支援専門員の会合「いすみネット」、運営法人にて開かれる職場連絡会議に参加し、同業者との意見交換・情報交換を行なっている。また、併設の老人保健施設や親交のあるケアハウスとの合同行事に参加し、職員・入居者同士の交流も図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にながら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談・見学を随時受け付けており、希望に応じて体験入居も可能となっている。入居後は、声掛けを手厚くし、出来るだけ早く信頼関係を築けるよう疎めている。帰宅願望のある入居者には、その人にあった声掛けや対応方法の工夫により、落ち着いた生活を送れるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の希望や能力に応じて家事等の生活活動を共同で行っている。職員は入居者から人生経験や生活の知恵を学んでいると共に、入居者からの感謝・労い・励ましの一言に癒しを得ており、共に支え合う関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約時の面談を通じて、本人・家族から意向や生活歴を聴取し、記録している。また、日々の生活における会話や暮らしぶりを記録している。		日々の生活の中で把握した意向や気付きを経過表に記録するだけでなく、情報をまとめ、基本情報を更新する事で、より新しい情報を盛り込んだ介護計画の作成に取り組んで頂ける事を望みます。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を考慮した上で計画作成担当者が介護計画の原案を作成している。原案作成後に職員会議にて意見を出し合い、より本人に即した介護計画の作成に取り組んでいる。作成後は、家族に説明を行い了承を得ている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、評価を行っている。評価内容を職員会議にて話し合い、必要があると判断した場合は、介護計画の見直しを行なっている。また、生活状況に変化があった場合は、随時計画の見直しを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	リフト浴槽が設置されており、入居者の身体状況に応じた入浴支援が可能となっている。併設の老人保健施設の福祉車両を借りる事ができ、大人数での外出が可能となっていると共に、合同行事を定期的実施し、入居者の生活の活性化に努めている。必要に応じて老人保健施設の作業療法士、栄養士に相談する事が可能で入居者の安心した生活を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外にもかかりつけ医への受診が可能であると共に、希望に応じて職員が通院の付き添いを支援している。週に1回訪問看護が実施され適切な健康管理が行なわれている。また、併設の老人保健施設との連携で緊急時や重度化に対する協力体制も構築されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の指針・方針を明文化し、契約時に本人・家族から同意を得ている。また、終末期の意向や対応の希望等を聴取し、記録している。重度化した場合は、家族や医師と相談しながら施設として最大限の対応をできる体制を整えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人書類においては、事務所にて保管し、個人情報の御後に努めている。運営法人にて接遇研修が行なわれており、職員全員が入居者の尊厳に配慮した接遇を心掛けている。居室に鍵を設置し、入居者のプライバシーの保護に取り組んでいる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のスケジュールは定めているが、無理強いはず、本人のペースに合わせて自由な生活を支援している。希望に応じて食事の時間や場所を変更する等、柔軟な支援が行われている。希望が言い出せない入居者においては、言葉掛けにて希望を把握し、その人に合った生活が送れるよう努めている。		

【千葉県】グループホーム いきいきの家 岬

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から片付けまで入居者の希望に応じて共同で行っている。献立や食材においては、配食サービスを利用し、栄養バランスに富んだ食事の提供を行っている。入居者の希望に応じて外食会を実施していると共に、行事の際には、特別食の提供を行い、食に対する楽しみを提供している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴においては、入居者の希望に応じて回数や時間等柔軟に支援している。また、入居者の体調に応じて清拭や部分浴を実施し、清潔保持に努めていると共に、リフト浴槽が設置され、能力に応じた入浴支援も行われている。浴室には、ヒーターや呼び出しボタンが設置され、安全面・利便性に配慮した造りとなっている。入居者の入浴拒否においては、声掛けを工夫し、入浴をしたくなる環境作りに努めている。季節に応じて柚子湯や菖蒲湯を実施し、楽しい入浴の提供を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の希望や能力に応じて家事等の生活活動を共同で行っている。体操や塗り絵等のレクリエーションを行い、入居者は自由に参加している。現在は、希望者がいないが、習字・編み物・裁縫等の趣味活動の支援も実施可能である。定期的に行事を企画・実施し、楽しみを提供していると共に、親交のあるケアハウスや併設の老人保健施設との合同行事も行なわれ、外部との交流も行なっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候や希望に応じて、散歩・ドライブ・買い物等の外出支援が行われている。また、中庭に椅子があり、お茶飲みや日なたぼっこ等が行なわれている。併設の老人保健施設から福祉車両を借りる事が可能で、行事や外出の幅を広げている。毎月、行事担当を決め、入居者の希望に応じて様々な戸外での楽しみを提供している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、施錠は行わず、入居者の自由な生活を支援している。玄関は、職員が季節の花を飾っており、暖かな雰囲気作りがなされている。施設全体が目の行き届く造りとなっており、玄関に設置されたセンサーチャイムを活用しながら、入居者の安全面に配慮している。		

【千葉県】グループホーム いきいきの家 岬

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いの下、併設の老人保健施設にて年2回消防訓練が行われており、職員が参加している。訓練にて、消火器やAEDの使用方法の講習も行われている。今後は、施設独自での避難訓練を実施する為、検討を進めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嗜好や能力に応じた食事提供がなされていると共に、食事・水分の摂取量を記録している。摂取量が不足している際は、声掛けを工夫したり、摂取しやすい物を提供する等、適切な対応が図られている。また、必要に応じて併設の老人保健施設の栄養士に相談する事が可能となっており、入居者の栄養の確保が行なわれている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は、全面バリアフリーで、目の届きやすい設計となっており、トイレや浴室にヒーターや呼び出しブザーが設置され、安全面に優れた造りとなっている。リビングには、テーブルや和室スペースがあり、入居者がくつろげる環境作りがなされている。また、南側に大きな窓があり、天気の良い日には、庭に出てお茶飲みや日なたぼっこが行なわれている。手洗いうがいの励行と加湿器の設置にて感染症の予防に努めている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居者の馴染みの物を自由に持ち込む事ができると共に、希望により畳を敷く事も可能となっており、入居者が安心してくつろげる居室作りがなされている。全居室にエアコンが設置され、適切な空調管理がなされている。また、鍵が設置されており、プライバシーの保護に努めている。入り口に表札や目印を設置しており、入居者が迷わないよう工夫している。		